

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	工学院大学	整理番号	1-5-033
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	理科教室の展開と支援学生への教育波及効果－地域貢献活動を通じての学生のデザイン能力等の育成を目指した工学教育の実践－		
申請単位	大学全体		
申請担当者	木村 雄二		
<p>(取組の概要)</p> <p>工学院大学は平成 6 年度から 10 年間にわたって全学的な取り組みとして、地域の小中学生を対象に「大学の先生と楽しむ理科教室」を毎年 8 月に開催している。この「理科教室」は子供たちに対する理科啓発、学生の人間性の涵養、そして多摩地域の教育振興に寄与している。毎年約 60 に及ぶ演示テーマを設定し、約 80 名の演示担当教員、約 400 名の支援参加学生、約 190 名の事務職員の協力体制の下、2 日間で約 7,000 名の小中学生とその父母が参加している。</p> <p>支援参加学生達は、演示テーマの模索・立案・具体化そして実施を経る中で、グローバルエンジニアに必要なコミュニケーション能力、デザイン能力及びプロデュース能力等を獲得し、科学に携わる者としての優しさや社会性を身につける場となっている。</p> <p>今後も継続的に展開し、理科教室の常設化を図るとともに、カリキュラム及びキャリア支援プログラム等にも積極的に取り入れ、教育改善を推進していく。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>大学の先生と楽しむ理科教室と題するプログラムは、平成 6 年以降教員・大学院生・学部学生が一体となって小中学生を対象に夏休みの終わりに開催されているものです。目的は青少年が理科・科学に魅力を持つように、分かりやすい科学の原理、不思議な科学現象、面白い実験、楽しい理科遊びなどを紹介し、理科好きの若者を育てようというものです。</p> <p>一方、担当者の大学院生をはじめとし、学部学生もテーマの設定から具体的な手順、問題解決を自身で行うことにより、デザイン能力、問題解決能力、コミュニケーション能力などを学生自身にも身につけさせることを意図したものです。</p> <p>この理科教室は毎年 60 におよぶ演示テーマを設定し、約 40 名の演示担当教員、約 400 名の学生のスタッフに対して、参加者 7,000 名です。10 回の参加者は延べ 6 万人以上にのぼっています。学生・教員・地域住民の成長を期待したものであり、組織化・運営など非常に優れた取組となっています。</p> <p>このような取組に対して学生が身につける付加価値をどのような指標を用い</p>			

て測定するか、測定結果に対してどのような評価を与えるかなどの将来計画が明確になっていれば、更なる効果が期待できます。